

私の絵画 --- ‘時’ に対する想い

源馬和寿

絵を描き始めて約20年になります。

私は絵を描くことにおいて、これまでいくつかの想いを持ってきました。今回はその一つ、「時にたいする想い」を言葉で表現してみます。

<風景画>

私は、絵を描くことにおいて、長く時間の染みこんだものに惹かれてきました。そこには時空を凝縮して語りかける何かがある、それを少しでもキャンバスに写し取れないかと絵筆をとります。

欧州の生活体験から、特に石造りの建物やその風景に惹かれるようになりました。時間を積み重ねてきた石造りの古い街並、そこに染込んだ複雑な歴史と人間の営み、そして、それを今に持続して、逞しく生きる人々の生活のにおいも重なります。

『水のないベネチア』

何度も訪れたベネチアで、私は水のないベネチアをよく描きます。これらの絵もそんな想いから生まれました。

ベネチアには、時間が染込んだ独特の色があります。建物に今も残る古い壁の織りなす色合いに、私は惹かれます。



『街角のカフェ』

複雑な歴史が重く折り重なる古い街並みに、椅子とテーブルを外に並べた街角のカフェは不思議に絵になります。ずっと昔からこうしてきたという風格と、今そこに憩う人々の雰囲気調和するからでしょうか。

- ・ 夏の長い陽射しとサングラス
- ・ 乾いた空気
- ・ 洒落た、真っ赤なテーブルクロス

- ・ 古いレンガと石の建物
- ・ そこに今を重ねる人々の生活



『日本で出会う‘時間’と風景』

日本で出会う風景も、その中にとけ込む色彩や建物の造形に独自の時の流れがあるように思います。私は、日本でも、どうもそのような対象がある風景が気になってし

まいます。下の絵は、左上が網代港、左下が福浦港にある海辺の小屋です。海を描きに行ったのに、海を背にして描きました。古い小屋には、時間を介して‘海’が一杯染込んでいました。



< 静物画 >

私の静物画には、何度も同じものが登場します。一つ一つの対象に、過去の‘時’の物語があるようです。

- ・ かつて時を刻んだ柱時計
- ・ かつては新しく、子供の友達だった人形
- ・ かつて、だれかに大事に磨かれたトランペット
- ・ かつて、潮騒を聞いていた貝殻や網

アトリエに集めたこれらは、私にとって時間が染込んだ宝もの、これからも大事な絵の仲間です。

